

2025年日本国際博覧会 持続可能な取り組みに関する表彰 受賞者一覧（公式参加者以外）

（各部門 五十音順）

●脱炭素部門

大阪ガス株式会社

《取り組み概要》

会場内の様々な事業者と連携して回収した生ごみやCO₂を原料として、合成メタン（e-メタン）を製造・供給。都市ガスの代わりに迎賓館や熱供給設備で実際に利用されており、会場内の脱炭素化に貢献するとともに、会場内でCO₂が循環するサプライチェーンを構築する要の役割を果たす。

《授賞理由》

将来的に都市ガスに活用されていく合成メタン（e-メタン）を製造する先進的な実証であり、製造プロセスを一般の来場者に分かりやすく伝える工夫がなされており評価されました。生ごみやCO₂を原料としエネルギーを得るもので、今後のCO₂排出量削減、カーボンニュートラル実現への貢献に期待を抱かせる技術であり、効果的なPRの実施などを含め今後の展開が期待されます。

株式会社きんでん

《取り組み概要》

パビリオン等の施設にAIを活用したエネルギーマネジメントサービスを導入し、空調設備の運転を最適化し省エネを図る。また、その場所の人の快適性を定量化した評価値を開発。この値をもとにした空調制御により、快適性と省エネ両立を目指す実証を実施。

《授賞理由》

ベンチャー企業と連携して、AIを活用した最新のエネルギーマネジメント技術を複数のパビリオン等に導入し、効果的な省エネを図ることは重要な取り組みであり、万博会場全体の省エネルギーにも貢献している点が評価されました。今後、定量的なデータにより省エネ効果を発信するなど、一般への訴求も期待されます。

積水化学工業株式会社

《取り組み概要》

西ゲート交通ターミナルのバスシェルターにフィルム型ペロブスカイト太陽電池を設置。発電した電気は16基ある大型蓄電池に充電され、バス停の夜間照明に供給。曇天や雨天で発電が不可能であっても、大型蓄電池から17日間は電力を供給することが可能。

《授賞理由》

脱炭素社会の実現に向け、普及拡大が期待され、新規性が高い技術であるペロブスカイト

太陽電池を多くの来場者が訪れる万博会場のバスターミナルに大規模に設置した意義は大きいものです。今後、様々な場所に設置できるペロブスカイトの特徴をより活かし、広くアピールしつつ導入促進に取り組んでいただくことが期待されます。

株式会社セブン-イレブン・ジャパン

《取り組み概要》

- ・次世代グリーン冷媒を搭載した冷蔵ショーケース機器の導入
- ・水素を活用した店舗での発電と水素サプライチェーン構築の実証実験
- ・リユース太陽光パネルによる空きスペースを有効活用した発電
- ・発電するガラスを店舗フロント面に設置
- ・会場内店舗から廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料 100%の燃料を精製。店舗への配送に活用

《授賞理由》

コンビニエンスストアでの、水素発電や低GWP（地球温暖化係数）冷媒、発電するガラスなど最新技術の活用と、それらをデジタルサイネージやインターネットで広報する取り組みは、脱炭素化への貢献が期待でき、全国展開の可能性を感じさせるものであり評価されました。今後、さらに来店者への分かりやすい情報発信も行うなど、市民社会に直結するコンビニエンスストアでの脱炭素化の取り組みが期待されます。

一般社団法人日本ガス協会

《取り組み概要》

- ・放射冷却性能を有する外装膜材の活用と建物形状の工夫などにより、建物全体で60%以上の空調負荷削減を実現
- ・主要構造部にリース材料を用いるとともに、基礎や床材のコンクリート使用を抑制し、建設時及び解体時のCO2排出量を大幅に抑制
- ・床下に通した空調ダクトに段ボールダクトを採用するなど、見えない場所にもCO2削減技術を採用

《授賞理由》

放射冷却膜材を用いた冷房負荷低減効果と鉄骨リユースによりライフサイクルカーボンを抑えた建物を実現していることが評価されました。また、合成メタン等の技術について、「化ける」という言葉で来場者に興味をもって伝える工夫がされています。放射冷却膜材の日傘など、万博での象徴的な展示をきっかけに一般へ普及させていくという万博の意義を体現するモデルケースの一つであり、今後のさらなる展開が期待されます。

《講評》

持続可能性有識者委員会・脱炭素WG 委員長 下田吉之

大阪・関西万博は、2025年時点で採用可能な最新技術の導入によりカーボンニュートラ

ルを目指した運営が進められています。また、2050年のカーボンニュートラルを実現するために開発し実装されるべき脱炭素技術の実証や展示が行われており、脱炭素社会の具体像を見る機会が提供されています。

今回受賞に至った取り組みは、こうした万博全体の方向性に合致しており、それぞれ新規性や将来性のある技術の導入・実証となっています。また、大規模な社会インフラ、建築分野、日常生活に近い小売店舗など、脱炭素化が求められる幅広い場面で活用が見込まれるものです。今後、取り組みの成果を分かりやすくPRすることなどにより、これらの技術がより広く社会に展開され、脱炭素社会の実現に貢献していくことを期待します。

●資源循環部門

株式会社アーバンリサーチ

《取り組み概要》

- ・店内にウォーターサーバーを設置
- ・店内什器は、組立・解体が可能なデザインを取り入れ、全体の約70%は会期終了後に通常店舗で再利用予定
- ・リサイクル糸を製品全体の30%に使用したTシャツについて、コーヒーメーカーとの協業により抽出後のコーヒー粉で染色し販売

《授賞理由》

会場内の店舗における給水機の設置は、ペットボトルの廃棄の削減につながり、万博のレガシーとなるものと期待されます。また、什器の約70%は会期終了後に通常店舗で再利用を図る点も評価されました。さらに、ファッション産業による環境負荷が社会課題となる中、リサイクル糸を使用したTシャツに、コーヒーメーカーとの協働により抽出後のコーヒー粉で染色を施し販売するなど、消費者に広く訴える手法は興味深い事例です。

株式会社 G-Place

《取り組み概要》

会場の食品ロス削減に寄与するフードシェアリングサービス（Webアプリ）「万博タベスケ」の提供および運用。出品者となる飲食店及び物販店が売れ残りそうな食品をお得な価格で出品し、来場者は出品された食品の購入予約が可能なサービス。

《授賞理由》

本システムは、既存のフードシェアリングアプリと比べると、登録者、利用者の利用料などの費用負担を無くすとともに、現地決済のためシンプルな方式で使用できることから、イベント会場や公共的な施設等での導入が見込めるなど日本全国に広がる可能性を感じさせます。食品ロス削減量が定量化できる機能を備えている点も効果的であり、万博を契機にレガシーとして社会に広がることを期待されます。

象印マホービン株式会社、株式会社中農製作所、株式会社スタッフ

《取り組み概要》

ボトルとキャップを約 20 秒で洗浄できるマイボトル洗浄機を開発。会場内に 10 台設置し、隣接する給水機と合わせて利用することで、飲料容器のリユースを促進し、ペットボトル等のリデュースを目指す。

《授賞理由》

マイボトルを持ち歩かない理由のひとつとなっている「洗浄の面倒さ」という課題を解決し、マイボトルの一層の利用を促すものであり、評価されました。廃棄ペットボトルの削減に寄与するマイボトルの携帯が、大多数の人の日常的な行動として定着するには至っていない状況の中、人々の行動変容を促す万博会場での多くの洗浄機や給水機の設置は万博のレガシーとして記憶されるでしょう。今後も広く社会に発信し、市中での展開につながることを期待されます。

《講評》

持続可能性有識者委員会・資源循環WG 委員長 崎田裕子

大阪・関西万博の会場内で日々発生する使い捨てプラスチックや食品ロスなどの廃棄物については、まず、リデュース・リユースにより最大限削減する取り組みが進められています。その上で、分別排出された資源のリサイクルを徹底することとしています。実際に会場内を見ると、プラスチック類等の廃棄物は比較的少ないという印象を受けています。この万博に関わる皆さんの 3R など廃棄物削減につながる取り組みの成果が表われてきているのではないのでしょうか。

特に、受賞の取り組みは、本表彰制度の趣旨に沿い、来場者の行動変容を促しながら、会場内で発生する廃棄物を削減するものであり高く評価されました。また、企業・団体間での連携により効果を生んでいる取り組みもあり、今後の広がりを期待させるものでした。今回実践された様々な取り組みについて、成果だけでなく課題の検証を進め、新たな展開につなげていただくことで、今後の社会において、当たり前のこととなるよう期待しています。

●調達部門（共通基準）

大林組・大鉄工業・TSUCHIYA 共同企業体

《取り組み概要》

- ・自社施設で排出された廃油から精製したバイオ燃料の建設重機使用
- ・外国人労働者への配慮
- ・DX 技術活用による労働時間の縮減
- ・大屋根リングの木材（集成材）への SGEC、PEFC 認証材や、福島県産材の使用と福島浪江工場の活用

《授賞理由》

バイオ燃料の活用、外国人労働者への配慮、労働環境改善に向けた DX 技術活用に加え、

福島県で作られた集成材を大屋根リングに活用することで東日本大震災からの復興を結び付けて訴求しており、調達コードの幅広い項目に高いレベルで取り組まれている点が評価されました。各取り組みは、万博終了後も他の建設現場への展開や建設現場以外への用途拡大が期待されます。

株式会社鴻池組

《取り組み概要》

- ・社内回収した廃食油から精製したバイオ燃料の建設重機使用
- ・カーボンマイナスコンクリート二次製品の開発と採用
- ・3D プリンターで廃プラから演台等製作
- ・循環排水再利用型浄化槽による汚水処理と活用

《授賞理由》

建設工事でのバイオ燃料活用、カーボンマイナスコンクリート二次製品の開発・採用といった実験的な取り組みをはじめ、温暖化対策、資源循環、循環経済を具体化する多様な取り組みを丁寧かつ熱意をもって行い、具体的なCO2量削減などの効果測定を示したことや、それらを企業全体で推進している姿勢、その発信に努めている姿勢について、評価されました。今後の展開や社会への影響力が期待されます。

株式会社セブン-イレブン・ジャパン

《取り組み概要》

- ・卵の代替となる大豆由来原料を活用した商品の販売による環境負荷低減
- ・おにぎりの具材に環境に配慮した魚原料やおからを使用
- ・商品に使用する包材のバイオPP配合比率向上によりCO2排出量を低減
- ・プラスチック製レジ袋不使用により環境負荷低減

《授賞理由》

卵や魚を代替する大豆由来のプラントベースフードの提供、包装材のバイオプラ化、レジ袋の紙化など、環境分野に特化して総合的に取り組まれたことや、インパクトを可視化し、その影響の可能性について定量化している点が評価されました。全国にチェーンを持つFCとして今後の展開も期待されます。

大成建設株式会社

《取り組み概要》

サステナブルな環境循環素材である茅材について、草原(茅場)の保全活動を通じて国内5か所の産地から採取し、再利用を前提とした施工方法でパビリオンの屋根材料に使用。

《授賞理由》

生態系保全や断熱効果によるエネルギー削減など環境面で大きなポテンシャルを持つ茅材を、国内産地と連携して調達し、若手を含む茅葺職人たちにより再利用を見越した葺き方でパビリオンの屋根材料としてつくりあげたことが評価されました。国内外からの来訪者などにサステナブルな環境循環素材として茅材を認知させることで、日本の茅葺文化の保全、活用が進むことが期待されます。

株式会社 FOOD & LIFE COMPANIES

《取り組み概要》

未来にまで水産資源を残し、寿司を提供しつづけるため、先端技術を用いた陸上養殖や完全養殖などの天然資源によらない水産物のみを使用した商品を提供。

《授賞理由》

人権面など組織としての総合力を高めながら、養殖の技術開発を通じて、天然資源によらない水産物のみを使用する寿司業界のロールモデルを示し、水産資源の持続可能性の維持と永続的な飲食経営に向けて意志を持って取り組んでいることが評価されました。循環型ユニ畜養事業等の取り組みの展開に加えて、今後、寿司ネタ（資源）を持続的に確保するという面から循環型社会を目指すため、餌や物流、処理後の残渣の問題など全体の展望を示されることも期待されます。

《講評》

持続可能性有識者委員会・持続可能な調達WG 委員長 加賀谷哲之

大阪・関西万博では、すべての事業者に「持続可能性に配慮した調達コード」の遵守を求めています。今回、受賞した取り組みは、調達コードの各基準の遵守を前提として、特に環境面での先進性や社会的影響力を示すものが多くなる結果となりました。万博をまさに未来社会の実験場として活用されており、会期後も各業界にポジティブな効果をもたらすことが期待されます。なお、受賞には至らなかったものの、労働や人権に配慮した優れた取り組みも見られました。今後の調達プロセスにおいて、環境・人権・労働・経済の各分野において持続可能性を具体的に示す取り組みがさらに進むことを期待しています。